

「関西国際空港を起点にインバウンド旅客を対象とする「海」を活用した新たな関西周遊クルーズルートの実証実験」

及び「大阪・関西万博を見据えた水上交通観光圏の形成事業」

海上空港である関西国際空港を起点とした「海」を活用した周遊クルーズ等の海上交通コンテンツが整備されておらず、大阪湾を中心とする「海」を活用した観光コンテンツが少ないのが実態であり、2025年の大阪・関西万博のコンセプトに「海の万博」が掲げられていることから、大阪湾などを活用した観光コンテンツを造成する。万博来場者を始めとしたインバウンドを含む様々な旅行者に対して、海上交通を新たな観光コンテンツとして提供する。関西国際空港から周辺港、四国などへのアクセスも兼ねた周遊クルーズルートを構築し、広域周遊につながるかを検証する。検証の詳細において、海上ルートの確保や遊覧コンテンツの造成を行い、その需要度を計る。既存観光コンテンツの洗い出し及び航行上必須となる海上法令に関する課題等も分析することを目的に実証事業を行う。事業については近畿運輸局と公益社団法人ひょうご観光本部が共同して実施する。

事業実施地域における背景・課題

広域的背景
及び
地域的課題

2025年の大阪・関西万博はコンセプトに「海の万博」と掲げられているが、大阪湾を中心とする海を活用した観光コンテンツが少ないことが大きな課題となっている。また、関西の玄関口である関西国際空港を起点とした地域周遊が可能な海上ルートや遊覧コンテンツが未整備であり課題解決が必要である。

効果検証・事業評価

航海する海の特徴を把握し安全性に実績のある2社(大阪水上バス(株)、神戸ベイクルーズ(株))を選定し、右記の4ルートにて実証運航を行い、船内外においての地元食材の飲食や周辺施設の見学等のコンテンツを実施した。乗船したモニターのアンケート結果は概ね好評であり、広域周遊に係る潜在的な需要を確認することができた。特に船内に和のテイストを持つ神戸ベイクルーズの安宅丸については、インバウンド客に対して好評であった。

また本実証事業を行うなかで、多様な関係者間で連携強化が計られた事は今後、運航体制を整えていく上で、重要な資源となる。

一方で特に冬季の運航の安全確保・海上運送関係法令に掛かる規制・費用面の課題、関西空港周辺で漁を行う漁業者との調整など運航に掛かる課題も明らかになり今後継続して調整を行う必要がある。

次年度以降の取組

当実証事業により、クルーズ船内外で提案した関西における地域素材について、旅行者の需要度が高いことが明らかとなった。2025年大阪・関西万博に向けて、今回構築した関係者間でのネットワークを活用したうえで調整を行い、2024年の春には運航体制を整えていきたい。

事業概要

▶事業主体

近畿運輸局及びひょうご観光本部

【請負事業者】

(株)リクルート

【運航事業者】

・大阪水上バス(株)

・神戸ベイクルーズ(株)

▶事業実施期間

令和4年9月～令和5年3月

▶取組概要

・クルーズルートの造成
およびモニターツアーの設計

└ I.大阪ルート:11/2(水)
(大阪水上バス)

└ II.神戸ルート:11/30(水)
(神戸ベイクルーズ)

└ III.徳島ルート:1/31(火)
(神戸ベイクルーズ)

└ IV.直行ルート:10/19(水)
(大阪水上バス)

・船内外においての地域の観光素材と体験コンテンツの選定。

・アンケート調査・設計・検証。

・来年度に向け専門家と検証。

I.大阪ルート 関西空港 → 交流の翼港(寄港)
→ 大阪港

テーマ 海と農と。大自然を体感する
日帰りクルーズ

II.神戸ルート 関西空港 → 交流の翼港(寄港)
→ 神戸港(寄港) → 大阪港

テーマ 兵庫のアート×テロワールを
味わう日帰りクルーズ

III.徳島ルート 関西空港 → 亀浦港

テーマ 日本遺産うずしおへ
日本の発酵文化を知る

IV.直行ルート 関西空港 → 大阪港

テーマ 日本ワイン×海幸を堪能
大阪もんBBQクルーズ

